

女性医師の立場から

心臓血管外科医を続けるために ～人との出会い～

学生時代、公衆衛生の教授が最終講義で『医師になったら、素晴らしい恩師をみつけること、そしてその先生のためならなんでもできる、そんな恩師をみつけてほしい』と話してくれたことを未だに記憶しています。私が心臓血管外科医として続けてこられたのも、素晴らしいMentorに巡り会えたことだと思っています。私が医師になった頃は、メジャーな内科や外科では女医はいらないと言われてきた時代でした。

初めのMentorの出会いには、『2年間は結婚しないこと』を条件に入局を後押ししてくれ、男女関係なく指導をしてくださいました。

そして榎原記念病院でのMentorは最新の医療を教えてもらい、Live operationの第1助手を2回、そして3年目にはチーフレジデントを経験させてもらいました。そして、今まで患者が来るのは当たり前と思っていた私に新島病院でのMentorは患者の集める大変さと大切さを教えてくれました。そして術者として育ててもらった現在のMentor、今やチーム医療などの立ち上げを任せてもらえるほどになりました。最後に大阪大学のMentorは、最後まで諦めない治療、最新治療など色々教えてくれました。そしてもう一つ、心臓リハビリの理学療法

士、臨床工学技士、看護師など優秀な他職種との出会いが後に私が困っている時に手助けしてくれました。

ここまで働いてきて、女医として外科医を続けるには、①仕事では泣かない、②まずは一人前になることに努力し、自分の居場所を見つける事だと思います。そして男女関係なく外科医を長く続けるには、日本

の労働環境の改善が必要だと思います。勤務状況が過酷であるにもかかわらず報酬が見合わないことで若手の外科離れが深刻となっています。アメリカのようにNurse Practitioner(NP)やPhysician Assistant(PA)制度が導入されれば、私達外科医も人間的な生活を送ることができ、外科医も増えるのではないかと考えています。



張崎 梨子
所属： 慶応医科大学 心臓・血管外科
卒業大学： 慶応医科大学
経歴：
1996年4月 慶応医科大学 胸部外科入局
その後は、済生会宇都宮病院、群馬心臓血管センターで研修
2001年3月 慶応医科大学院 終了
その後は、榎原記念病院、新島病院などで研修
2006年9月 慶応医科大学 胸部外科
大阪大学に院内留学
2011年1月 慶応医科大学 心臓・血管外科
趣味： 旅行
好きな音楽： 海外ロック